



12/5 (水) 図書館・学校の本が簡単検索

12月5日にインターネットの環境があれば、いつでも、どこでも、好きなときに図書館や市内小中学校の本が検索できるシステムが稼働しました。その「浦添市図書館総合蔵書検索システム」の稼働式が仲西小学校で行われ、参加した子ども達は実際にシステムで図書の検索をしました。

システムを利用した津波古由妃さんは「本の検索機械があればいいと考えていたが、それができて嬉しい。これからたくさんの本に出会いたい」と感想を述べました。



11/22 (木) オスプレイ配備撤回を訴える

「オスプレイ配備の撤回と米兵の蛮行に抗議する浦添市民大会」が市社会福祉センターで行われました。約500人の市民が抗議の意思を表すために参加し、オスプレイ配備撤回と普天間飛行場の早期閉鎖・撤去、日米地位協定の見直しを求める決議文が採択されました。

実行委員長（市長）は「市民・県民の負担、我慢は限界です。根気のいる戦いになりますがみんなで頑張りましょう」と挨拶し、副委員長（議長）の音頭のもと「頑張ろう」三唱で、心を一つにしました。



11/15 (木) 税金の大切さを伝える「租税教室」

日本の未来を担う児童・生徒に国や地方公共団体の財政を支える租税の大切さ、納税の重要性などを理解してもらうことを目的に、市内の小・中学校で「租税教室」が実施されました。

当山小学校では6年生を対象に、本市市民税課職員が「租税教室」の講師をしました。講義では「もしも税金がなかったら、どうなるのか?」という内容のビデオ上映をしました。ビデオ視聴後の生徒たちは、税金がどれほど大切なのか考えさせられた様子でした。また、身近な税金を例に挙げ、税金の種類や使われ方などの説明を行うことで自分達の学校や教科書なども税金が使われていることを知り、関心を持ってもらうことができました。



11/22 (木) 子どもにもっと野外体験を

「子どもは体験の中で学び育つ!」をテーマにハーモニーセンターで「第36回社会教育研究大会」が開催され、講演やシンポジウムが行われました。

前半は沖縄県ユースホステル協会の福島誠司氏が野外体験と子ども達の心や体の成長との関連について講演をしました。

後半のシンポジウムではコーディネーターに張本文昭氏、パネリストに福島誠司氏、丸谷由氏、有銘佑理氏を迎え、子ども達との野外活動の紹介やその活動経験を通しての想いを熱く語りました。

大会に参加された方からは「子どもと早速、野外体験を楽しみます」との感想がありました。



11/10 (土) 11/11 (日) 世界の文化に触れて楽しむ

国際協力、国際交流事業を実施する県内の団体が日頃の活動を紹介する「国際協力・交流フェスティバル」がJICA沖縄国際センターで開催され、2日間で4,500人が来場しました。

このイベントでは、国際色豊かなワークショップやアトラクションの他、約50の団体等の展示や屋台の出店などがあり、本市国際交流課も日頃の活動を紹介しました。

また、世界各地から来沖したJICA研修員によって、アフリカ・アジア・中近東・大洋州・中南米の各地域の歌や踊りが披露され、観客と一体となった会場は、国際交流の場として盛り上がりしました。



11/20 (火) 記念珊瑚の植え付けに出発

「まもろうよ きせきのほしの あおいうみ」をテーマに11月17日、18日に糸満市で行われた「全国豊かな海づくり大会」には、天皇皇后両陛下がご臨席されました。その際、日頃から「サンゴ養殖事業」に積極的に取り組んでいる沖縄開発株式会社の活動が評価され、天皇陛下よりサンゴの苗が授与されました。

授与されたサンゴの苗の植え付けをするため、牧港漁港内で出発式が行われました。市長も出発式に参加し、植え付け作業を行うダイバーの方々をお見送りしました。



11/17 (土) 児童センターフェス盛り上がる

市内児童センター11施設が一同に集う「児童センターフェスティバル」が、市総合運動公園内の屋内運動場で行われました。

オープニングでは森の子・西原の両児童センターによる空手の演舞や宮城っ子児童センターによる太鼓の演舞が行われました。また、職員によるフラビンジャーショーもあり、会場は大いに盛り上がりしました。

その後は、スポーツやゲームなど様々なレクリエーションが催され、各児童センターの活発な活動の様子がうかがえました。